



「新型コロナウイルス禍」で考える

コロナ禍の中で、露呈したのが「新自由主義社会の脆弱さ」です。

感染者・死者などの多くは、どの国でも貧困層がより多くの犠牲を強いられています。生活・医療・居住・衛生環境等の貧困が背景です。グローバルリズムの中で、「全ての人が安全になるまで、誰一人安全にならない（オックスファム）」「富の再配分をより大幅に行わないなら、ただ経済が成長しただけでは貧困に有効な対応はできない（国連人権委員会）」等の呼びかけを社会に浸透させたいものです。

ところで、8月中旬に「GDP戦後最悪 年27・8%減」が報道されました。それは、倒産・廃業、解雇・失業、賃下げ、貧困と連結します。

いま、問われるのは格差是正と、セイフティネットの確立です。

無償又はより低廉負担の「教育・保育・医療・介護・住宅」「雇用安定と生活できる賃金・失業手当・休業補償・傷病手当」等の実現です。そのための「富の再配分」の闘いは欠かせません。例えば、488兆円の内部留保に臨時に20%課税すれば約100兆円ができます。

他方、安倍政権・財界は医療の弱体や非正規雇用拡大など自らの施策で招いた「コロナ禍」を逆手にとり、テレワーク・デジタル化等の促進を勤労者の犠牲で狙っています。

「アベ政治を許さない」構えを再確認し、その内実を勤労国民のものにし、来るべき解散・総選挙に備えましょう。